

改善の方向性・具体策（案）

項目	検討課題	改善の方向性・具体策	留意事項等
1 選 抜 制 度	ア 日本語支援が必要な生徒への配慮		
	日本語支援が必要な生徒が増加傾向にあることを踏まえ、日本語支援が必要な生徒が学ぶ機会を確保する必要がある。	・多様性を包摂する観点から、日本語支援が必要な生徒の定員枠を設置することが望ましい。	・各県立高等学校の実情を踏まえ、定員枠を設置する学校を検討する必要がある。 ・出願資格、学力検査の受検教科等を検討する必要がある。 ・入学後の受入体制を整備する必要がある。
	イ 部活動・地域クラブ活動等の点数化		
	部活動の地域展開が推進されている現状を踏まえ、部活動や地域クラブ活動等に係る評価方法や点数化の在り方について様々な意見が出され、その扱いについては意見が分かれた。	・現行制度の成果を生かし、特色化選抜において選抜資料の配点等の示し方について工夫し、受検生の多様な能力、意欲、適性等を適切に評価することが望ましい。	・部活動及び地域クラブ活動等の評価方法について、受検生、保護者にわかりやすく伝わるよう、「求める生徒像・選抜方法等一覧」の表記等を改善することが望ましい。
	ウ 選抜の透明性の確保		
	一般と特色化のどちらの選抜で合格したかについては、保有個人情報の提供の対象となっていないため、保護者から不透明であるとの指摘があり、その扱いについては意見が分かれた。	・一般と特色化のどちらの選抜で合格したか情報提供することについては、受検生の心情を配慮し、慎重に検討する必要がある。	・求める生徒像・選抜方法等一覧に、一般と特色化の選抜順序が記載されていることから、どちらの選抜で合格したか情報提供することが、合格者の選抜における順位の推測につながることに留意する必要がある。
	エ 併願制度の導入		
	現行制度の成果を生かし、一般選抜と特色化選抜を一本化した入学者選抜を実施することを基本とするが、受検生の心理的負担への配慮、学校の負担軽減及び再募集出願者数が減少傾向にあることを踏まえ、併願制度の導入等により、再募集の実施方法を改善する必要がある。	【A案】 ・入学者選抜で、第1志望と異なる学校への第2志望までの出願を認める。 ・第2志望校への出願締切は、第1志望校の出願状況公表後に設定する。 【B案】 ・入学者選抜で、第1志望と異なる学校への第2志望までの出願を同時に認める。 ・出願締切後に、出願先の変更を1回まで認める。 【A案・B案共通事項】 ・学力検査の実施を1回とし、第2志望校の入学者選抜は、第1志望校で受検した学力検査の結果を活用する。 ・入学者選抜において、当該高校を第1志望とする志願者が募集人員に満たない場合に、第2志望とした志願者から合格を決定する。	・第1志望校で受検した学力検査結果に係る第2志望校への情報提供の日時及び方法や、第2志望校における選抜方法等について検討する必要がある。 ・定時制の課程における実施について検討する必要がある。 ・学力検査を受検できなかった受検生の第2志望校における入学者選抜の取扱いを検討する必要がある。 ・学力検査の実施を1回とする場合、第2志望校における学力検査の得点の取扱いを検討する必要がある。 ・高等学校の事務作業が煩雑となる可能性がある。 ・学力検査の実施から選抜結果の通知まで、期間が長期化する可能性がある。 ・【B案】の出願先変更について、第1志望の変更を認めるか、検討する必要がある。

項目	検討課題	改善の方向性・具体策	留意事項等
2 学力検査・調査書	ア 国語の放送による検査の改善		
	記憶力を測るだけの出題となっているのではないかと指摘があり、実施の是非や出題内容について意見が分かれた。	・生徒の聞き取る力を見取る方法として、放送による検査の妥当性について検討する必要がある。	・重視されるべき能力を適切に評価することに留意して検討する必要がある。
	イ 「部活動」欄の見直し		
	部活動に加入していない生徒は部活動欄が斜線となるため、入学者選抜において不利になるのではないかと誤解を与えるおそれがあることや、部活動の地域展開が推進されている現状を踏まえ、「部活動」欄の取扱いについて検討する必要がある。	・「部活動」欄を削除することが望ましい。 【A案】 ・現在の調査書の「その他」欄や「総合所見及び指導上参考となる諸事項」欄に、部活動や地域クラブ活動等の多様な活動実績等を記載する。 【B案】 ・部活動や地域クラブ活動等の多様な活動実績等を記載できる欄を新設する。	・部活動や地域クラブ活動等の多様な活動実績等を記載できる欄を新設する場合は、受検生や保護者に誤解を与えるような名称としないように留意する必要がある。
3 受検機会・選抜日程	ウ 不登校生徒への配慮		
	不登校生徒にとって、調査書に欠席日数を記載する欄があることによる心理的負担や、入学者選抜における不安につながっていると指摘がある。また、不登校生徒が増加傾向にある状況を踏まえ、特別の教育課程における学習評価について、調査書への記載方法を検討する必要がある。	・不登校生徒の不安等を解消する観点から、「欠席の状況」欄を削除することが望ましい。 ・不登校生徒の多様な実態に寄り添い、特別の教育課程における学びが高等学校へ適切に接続する観点から、評定や記述による評価等を「各教科の学習の記録」欄に記載することが望ましい。	・自己申告書の取扱いを検討する必要がある。 ※現行制度では、いずれかの学年の欠席日数がおおむね30日以上ある者は、本人の希望により提出できることとしている。 ・次期学習指導要領等、国の動向を注視しながら、特別の教育課程における学習評価の調査書への記載について、検討することが必要である。
	ア 選抜日程の改善		
	現在の選抜日程を基本としつつ、追検査の実施により長期化している入学者選抜日程を改善する観点から、入学者選抜と再募集の一体的な改善を検討する必要がある。	・入学者選抜と再募集の一体的な改善を図るため、併願制度を導入することが望ましい。 ・具体的な期日については、再募集を含めた全日程を3月中旬までに終了することが望ましい。	・期日の決定については、中学校及び高等学校関係者の意向や、併願制度の導入による選抜日程の変更を踏まえ、日程調整する必要がある。
	イ 受検機会の確保		
	現行制度の成果を生かし、入学者選抜により欠員が生じた場合は、補充するための再募集の実施を検討する必要がある。	・入学者選抜で併願制度を実施する場合についても、受検機会を確保する観点から、再募集を実施することが望ましい。	・受検生への配慮や高等学校の負担を軽減する観点から、再募集では、入学者選抜の学力検査の得点を活用することや、学力検査を課さない入学者選抜を実施すること等を検討する必要がある。